

産業構造審議会商務流通情報分科会バイオ小委員会（第8回） 議事概要

日 時：平成29年12月19日（火曜日）14時00分～16時00分

場 所：経済産業省本館2階西3共用会議室

議 題：（1）遺伝子組換え生物の第二種利用における包括確認制度
（2）スマートセルインダストリーの実現に向けた取組

出席者：久原 委員長、池浦 委員、鎌形 委員、川嶋 委員、釘宮 委員、佐々 委員、
松田委員

事務局：藤木 商務・サービス審議官、上村 生物化学産業課長、小出 生物多様性・生
物兵器対策室長、横手 生物化学産業課課長補佐 他

【議事概要】

事務局から資料に沿って説明を行い、続いて討議が行われ、委員より以下の意見が出された。

<遺伝子組換え生物の第二種利用における包括確認制度>

- 2000件を超える制度運用実績をもとに、安全性を担保した形で運用の適正化を行っており評価する。単に簡素化し効率化だけを目指したものと捉えられないようにしていただきたい。
- 包括確認制度の範囲がG I L S P相当におさめていること等、EUの規制に比べるとまだ厳しい。今後の運用状況を踏まえ、更なる合理化の検討を行って欲しい。

<スマートセルインダストリーの実現に向けた取組>

- 生物由来のビッグデータ基盤の構築は頼もしい。1回のデータ解析でテラバイトレベルの容量が必要であり、ベンチャー企業だと自社でデータを持ちきれない。コスト面ではAmazonやGoogleのサーバが安い。どこにデータを預ければ良いのかを検討する必要がある。
- ビッグデータ基盤の構築にあたっては、データの標準化が必要。
- ベンチャーに対する投資についてミドルやアールステージへの投資が少ない印象。
- 疾患リスクの早期発見においては、マーカーの特定が重要であり、そのためにはバックグラウンドデータ（健常人データ）が必要。
- 革新的な生産技術の開発については経済産業省が牽引していくべき。企業が主導して行うプロジェクトを進めるべき。若い人が個人の着想を生かせるような仕組み作りを行って欲しい。
- 抗体医薬の技術を完成させたのはベンチャー企業。これを例にグリーンバイオでもビジネスモデル描いてみると参考になるのではないか。

- 微生物や菌株の培養技術に合わせるのではなく、プロセス管理、品質保証まで含めたトータル生産コストを低くする微生物・菌株改良を行うアプローチがあるのではないか。
- 国内にバイオエコノミーをつくるという観点では、原料を安く調達できない場合、バイオマスの生産性が高くなることが期待できる地域に適用できるような技術を日本発でつくり、現地にインストールするという試みが必要と考える。
- 遺伝子組換え技術による物質生産において、革新的なものができるというグッドケースを示していくことが重要。

お問い合わせ先

商務情報政策局 商務・サービスグループ 生物化学産業課

電話：03-3501-8625（直通）

FAX：03-3501-0197